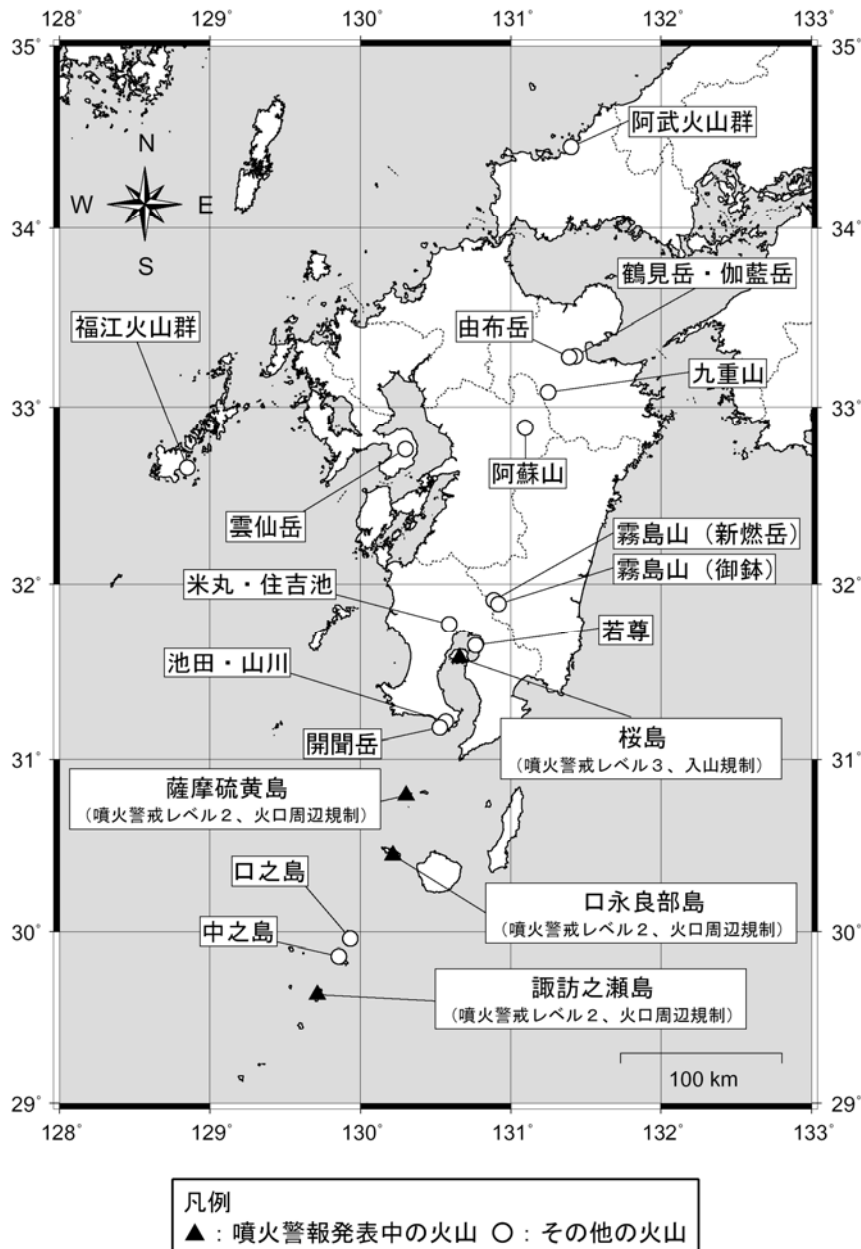


管内月間火山概況（平成 21 年 9 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（9月30日現在）

- 火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）：桜島
- 火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）：薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島
- 噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）：九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（新燃岳）、霧島山（御鉢）
- 噴火予報（平常）：阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島



※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入されています。

この管内月間火山概況は福岡管区気象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（平成 21 年 10 月分）は平成 21 年 11 月 9 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、九州地方整備局大隅河川国道事務所、国土地理院、京都大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所、独立行政法人産業技術総合研究所、大分県及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

各火山の活動状況及び予報警報事項

口永良部島では、27 日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引き上げました。その他の火山では、予報警報事項に変更はありません。

九重山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

阿蘇山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

中岳第一火口では、南側火口壁の噴気孔で火炎現象及び赤熱現象を引き続き観測しました。

その他の火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、火口付近では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。

雲仙岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

霧島山（新燃岳）〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、火口内及び火口の外の西側斜面では引き続き噴煙がみられることから、火口内では火山灰等の噴出に警戒が必要です。

霧島山（御鉢）〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）〕

昭和火口では噴火が 82 回発生し、そのうち、爆発的噴火は 55 回でした。大きな噴石が 4 合目（昭和火口から 800～1,300m）まで飛散する爆発的噴火が 11 回発生しました。また、同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映が時々観測されました。

南岳山頂火口では、10 月 3 日（期間外）に空振（桜島黒神）295Pa の爆発的噴火があり、噴煙が火口縁上 3,000m まで上がり、弾道を描いて飛散する大きな噴石が 4 合目まで達しました。

二酸化硫黄の平均放出量は 1 日あたり 2,500 トン程度と多い状態でした。

火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は、そのほとんどが噴火によるものでした。

桜島の噴火による降灰量は、7 月以降増加していますが、傾斜計による地殻変動観測では山体地盤の下降を示す変化は認められていません。このことから、桜島直下へのマグマの供給が徐々に増加していると考えられます。また、GPS による地殻変動観測では、始良カルデラ深部（鹿児島湾奥部）の膨張による変化が引き続き観測されています。今後、始良カルデラの地下深部に蓄積したマグマが桜島直下へ多量に移動・上昇した場合には、火山活動が更に活発化する可能性があります。

桜島の火山活動は次第に活発化している傾向がみられることから、今後の推移に注意する必要があります。

昭和火口及び南岳山頂火口から 2 km 程度の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。降雨時には土石流に注意が必要です。

薩摩硫黄島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は高い状態で経過しました。火山性地震はやや多い状態が続いています。

薩摩硫黄島では、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では噴火に対する警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石にも注意が必要です。

口永良部島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕 ← 27 日に噴火警戒レベル 1（平常）から引上げ

27 日に火山性地震が増加したことから火山活動が高まったと判断し、火口周辺警報を発表して、噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引き上げました。

28 日に気象庁機動調査班（JMA-MOT）が第十管区海上保安本部の協力を得て、京都大学と合同で実施した上空からの観測では、新岳火口及びその周辺の地形や地表面温度分布に特段の変化はなく、新岳火口から引き続き噴煙が認められました。

火山性地震は 27～28 日に増加しましたが、29 日以降次第に減少しています。GPS 連続観測では、新岳火口浅部の膨張を示す変化は 6 月以降認められず、その他の火山活動にも特段の変化はみられません。

口永良部島では、新岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性がありますので、火口から概ね 1 km の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石にも注意が必要です。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

御岳^{おたけ}火口では、爆発的噴火を含む噴火が断続的に発生しました。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

諏訪之瀬島では、御岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石にも注意が必要です。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められず、予報警報事項に変更はありません。